

自殺対策メールマガジン

第3号 R2年8月

発行: 福島県精神保健福祉センター

〒960-8012 福島市御山町8番30号 5階
TEL: 024-535-3556 FAX: 024-533-2408
E-mail: je_cj@pref.fukushima.lg.jp

目次

- p.1 お知らせ
自殺に関する統計情報
【特集】自殺対策に関わる統計と使い方
p.5 アディクションのページ: ギャンブル等依存症あれこれ
編集後記

お知らせ

- 自殺関連指標を計算するためのエクセルシートを最新版に更新しました（令和2年7月8日）
 - H30、R1年の警察統計について保健所集計に誤りがあり修正しました。
- 自殺対策計画策定状況
 - 令和2年3月末時点で、計画策定が完了しているのは45市町村（76.3%）です。10市町村が令和2年度中に策定予定です。
- 自殺予防週間（毎年9月10日～16日）の取組みが開始しました
 - 令和2年8月4日、厚生労働省より令和2年度自殺予防週間の主な取組みについてお知らせが発出されました。今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年よりも早く学校が始まる地域が多いため、前倒しし8月1日から実施されています。
(https://www.mhlw.go.jp/stf/r2_jisatsuyoboushukan.html)
 - SNS相談、広報ポスター・インターネット広告（検索・SNS・動画）による相談窓口の周知などが実施されます。
 - 厚生労働省の取組みとして、「生きづらさ」をテーマにしたネット番組が制作・配信されます。（配信：BuzzFeed Japan「もくもくニュース」 8月下旬予定）

自殺に関する統計情報

- 福島県内の自殺者数について（令和2年7月末暫定値）

警察庁より令和2年8月14日付で発表されました。7月の福島県内の自殺者数は39人で、6月より17人増でした。

今年1～7月の自殺者数の累計は198人で、昨年度の同期間と比較して約16%減です。

【特集】自殺対策に関わる統計と使い方

自殺に関わる統計では、自殺者数が計上され、自殺者数から自殺死亡率（自殺率）が算出されます。自殺者数と自殺死亡率は、自殺対策を検討する際の指標としてよく用いられます。

自殺死亡率の計算に必要な数値は、自殺者数と人口です。

自殺者数：自殺によって亡くなったと判断された人数

人口：総務省統計局が公表する国勢調査または人口推計の確定値、各市町村が公表する数値

自殺死亡率：人口10万人あたりの自殺者数。自殺率と略される

(自殺率) 計算式：自殺者数÷人口×100,000

$$\left(\frac{\text{自殺者数}}{\text{人口}} \times 100,000 \right)$$

※死因別死亡率は人口10万人あたりを単位としています。死因が自殺の場合は「自殺死亡率（自殺率）」で、他の死因による死亡率と同様、人口10万人あたりで求めます。

<自殺者数の統計は2種類>

自殺者数は人数だけでなく、性別、年齢、原因・動機などの様々な事柄が調査され、統計資料としてまとめられています。警察庁が集計している自殺統計と厚生労働省が集計している人口動態統計の2つで、主に表のような違いがあります。

		自殺統計	人口動態統計
自殺者数を集計し結果を公表する機関		警察庁	厚生労働省
集計に用いる調査票の名称		自殺統計原票	人口動態調査票（死亡票）
調査票の作成者		検視または見分を行った警察官	市区町村 (医師の死亡診断書に基づき市区町村が作成。都道府県(保健所)と厚生労働省が審査)
調査する内容	対象	日本における外国人も含む総人口	日本国内に居住する日本人
	場所	(自殺死体の) 発見地	住所地 (住民票がある市町村)
	計上される時点	捜査等により自殺であると判明した時点	死亡した時点
調査結果の発表・公表時期		調査月の翌月 (上旬頃：速報値 下旬頃：暫定値)	調査月の約5ヶ月後 (概数)
確定値の内容	年間の確定値	翌年3月	翌年秋～冬頃
	総数	○	○
	男女別	○	○
	年齢階級別	○	○
	職業別	○	-
	原因・動機別	○	-
	場所別	○	○
	都道府県別	○	○
市区町村別	○ (厚生労働省へデータ提供)	○ (再集計の上、厚生労働省が発見日・発見地別に公表) [項目：年齢、同居人の有無、職業、場所、手段、時間帯、曜日、原因・動機別]	

たいていの場合、警察庁の自殺統計の方が大きい数値になります。理由は、警察庁の自殺統計は外国人も含む総人口が対象になるからです。

例えば令和2年1月における全国の自殺者数を比較すると、右表のような差があります。

	警察統計 (暫定値)	人口動態統計 (概数)
令和2年1月自殺者数	1,678人	1,527人
	↑ 差:151人 ↓	

また、いわゆる自殺の名所と呼ばれる場所がある地域では、警察統計の数値が大きくなる傾向があります。たとえば令和元年の確定値をみると、警察統計と人口動態統計の差が最も大きかったのは山梨県で、警察統計の数値が人口動態統計の数値の1.33倍でした。(福島県は0.99倍)

警察庁の自殺統計の方が直近の数値を把握できるというメリットはありますが、発見地となった市町村の住民であるかどうかはわかりません。表のような違いがあることを踏まえて、データを集めたり数値を活用することが必要です。

<人口が少ない市町村の自殺死亡率の見方>

人口が少ない町村の場合、自殺者数が1増減しただけで自殺死亡率が大きく変動します。

▶ 1人の増減でどれくらい変動するのか… ◀

人口1万人の町(X町)と人口30万人の市(P市)を仮定して、自殺者数が1増えた場合の自殺死亡率を比較してみます。

自殺者数 が1増える と…	X町 (人口1万人)		自殺率 10.0増加	P市 (人口30万人)		自殺率 0.33増加
	自殺者数	自殺死亡率		自殺者数	自殺死亡率	
	2人	20.0		60人	20.0	
	3人	30.0		61人	20.33	
				90人	30.0	

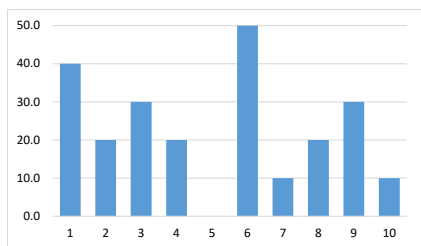
X町では、自殺者数が1増えると、自殺死亡率は10.0増加します。P市では0.33の増加です。人口に30倍の差があるので、自殺死亡率の変化の大きさも30倍の差があります。

自殺者数1の増減でこれだけ自殺死亡率が変動してしまうので、人口が少ない町村の場合、単年の数値で傾向を把握することは非常に困難です。そこで、「5年間の自殺死亡率の平均値」を使う、「標準化死亡比」を用いて比較してみる、などの工夫が必要です。

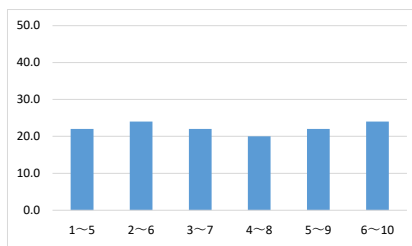
(実際に、福島県内各市町村の自殺対策計画策定に際して、いくつかの町村では5年間の平均値を参考に自殺死亡率の推移を活用しています。)

グラフの見え方(単年と5年間平均の自殺死亡率)

自殺死亡率を単年の数値で表したグラフと、5年間の平均値で表したグラフを比較すると、下記のような違いが出ます。(※グラフはイメージです)



単年で表したグラフ



5年間の平均で表したグラフ

各市町村や各方部の自殺死亡率や5年間の平均値は、精神保健福祉センターで作成している「自殺関連指標を計算するためのエクセルシート」で確認できます。計算方法などは、精神保健福祉センターホームページ(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21840a/suicide-statistics.html>)を参考にしてください。

<自殺関連指標を計算するためのエクセルシート>

平成11年～令和元年までの、福島県内の各市町村・各方部における自殺者数や自殺死亡率などの数値が入力されています。それらが全国の数値と比べて高いか低いかなどを確認することができます。

	ctv_jinkou (市町村ごとの人口)	suicide_jinkoudoutai (人口動態統計)	suicide_keisatu (警察の自殺統計)
シートの編集	×	○ <sityouson シート> ※黄色のセル…市町村名・保健所名 ※ピンク色のセル…有意水準	×
表示される数値	人口(年齢階級別) ※福島県人口推計より 10月1日現在	自殺者数 自殺死亡率 5年平均自殺死亡率 全国の自殺死亡率との差 標準化死亡比(対全国) など	自殺者数 (年齢、同居人の有無、職業、 場所、手段、時間帯、曜日、 原因・動機別) 年齢別自殺死亡率 など

※sityousonシートが編集できない場合は、保護解除が必要です。

＜人口や年齢構成の違いによる差を調整し、比較検討する方法＞

年代ごとに、多い死因は異なります。市町村ごとに人口や年齢構成も異なるので、市町村の年齢構成の偏りが自殺死亡率にも影響することが考えられます。

そのような場合、『標準化死亡率』や『年齢調整死亡率』を求め、数値を比較検討する方法があります。

(『標準化死亡率』や『年齢調整死亡率』は死因が自殺の場合に限らず用いられる指標ですが、ここでは自殺関連指標を計算するためのエクセルシートに合わせ、市町村と全国の数値を用いて、標準化死亡率と年齢調整死亡率の説明をします。)

		標準化死亡率 (standardized mortality ratio: SMR)	年齢調整死亡率
用語の説明		市町村と全国の自殺死亡率が同じだとした場合に予想される市町村の自殺者数を求め、実際の自殺者数の何倍かを示す	市町村の人口構成が全国と同じだとした場合に実現されたであろう自殺死亡率
できること		予想される自殺者数が実際の自殺者数の数値と比べてどれくらい高いか(低いか)見る	市町村と全国(基準人口)の自殺死亡率の数値を比較
どんなときに用いるか		・年齢調整死亡率の算出に必要なデータが得られないとき ・人口規模の小さい集団のとき	・市町村と全国の自殺死亡率を比較するとき ・比較的人口規模が大きく、かつ年齢階級別自殺死亡率のデータが得られるとき
計算に使用するデータ	市町村	各年齢階級の人口 自殺者数(総数)	各年齢階級の自殺死亡率
	全国	各年齢階級の自殺死亡率	(基準人口の)各年齢階級の人口 (基準人口の)総人口
結果の数値の意味		市町村と全国の自殺死亡率が同じだとした場合に予想される自殺者数(期待死亡数)	市町村の人口構成が全国と同じだとした場合に実現されたであろう自殺死亡率(人口10万人あたり)
結果の解釈の仕方		自殺者数の数値を100としたときに、期待死亡数の数値がいくつになるか (100より大きければ全国平均より高く、 100より小さければ全国平均より低い。)	年齢構成の違いにより自殺死亡率に差が出ていないか、区別がつけられる
応用の仕方		全国の代わりに福島県の自殺死亡率を用いれば、県と市町村の数値を比較できる	全国の代わりに同市町村の過去の自殺死亡率を用いれば、過去と現在を比較したり年次推移を見ることができる

標準化死亡率は、自殺関連指標を計算するためのエクセルシートで確認できます。

平成30年の福島市の年齢調整死亡率を求めてみる

自殺死亡率は、自殺関連指標を計算するためのエクセルシート(suicide_keisatu)を参照。

基準人口は、厚生労働省ホームページ「年齢調整死亡率について」を参照。

年齢階級	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
自殺死亡率	4.31	19.5	29.5	17.5	16.2	9.36	11.7	25.2
人口	33,670,000	17,786,000	18,419,000	18,051,000	14,197,000	10,057,000	5,917,000	2,190,000
総人口	120,287,000							

$$\begin{aligned}
 & \text{計算式: } \{(\text{市町村の各年齢階級の自殺死亡率} \times \text{基準人口の各年齢階級の人口}) \text{の総和}\} \div \text{基準人口の総人口} \\
 & = (4.31 \times 33,670,000 + 19.5 \times 17,786,000 + 29.5 \times 18,419,000 + 17.5 \times 18,051,000 + 16.2 \times 14,197,000 + \\
 & \quad 9.36 \times 10,057,000 + 11.7 \times 5,917,000 + 25.2 \times 2,190,000) \div 120,287,000 \\
 & = 14.96
 \end{aligned}$$

平成30年の福島市の自殺死亡率は15.22なので、年齢調整死亡率よりも若干高い数値でした。

ギャンブル等依存症あれこれ

みなさんは、ギャンブル等依存症についてどのような印象を持っていますか。毎日のようにパチンコ店に入り浸っている、多額の借金があるのに競馬、競艇などのギャンブルがやめられないなどでしょうか。最近では若い世代のインターネットの課金制ゲームなどにはまるケースも増えてきています。

厚生労働省の2017年の調査によれば、生涯でギャンブル等依存症が疑われる状態になったことがある人は成人の3.6%と推計され、国勢調査のデータに当てはめると約320万人に相当します。この割合を諸外国と比較すると、オランダが1.9%（06年）、フランスが1.2%（11年）、スイスが1.1%（08年）であり、日本の割合の高さが目立ちます。

また、最近1年間に依存症が疑われる状態だった人は、日本は0.8%で、計算上では約70万人となります。米国は1.9%（01年）と日本よりも高く、日本は英国の0.8%（00年）と同水準となっています。（日本経済新聞2017/9/29）

ギャンブル等依存症の人は、意思が弱いとか規範意識が低いからやめられないのではありません。病気だからやめることができないのです。当センターでは、ギャンブルの問題を抱えている本人、その家族の方に対し、様々な支援を行っています。

本人向け

- SAT-G（島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム）
 - ・ギャンブル等にたよらない生活を取り戻すことを目指したプログラム
 - ・ワークブックを用いてグループで学びます（月1回全5回）
- SAT-Gライト
 - ・重複障害のある方のプログラムです（月1回全3回）
 - ・支援者と一緒に参加していただけます
- GA
 - ・ギャンブルをやめたいという願いを持つ人が集う自助グループ（月1回）

家族向け

- ギャンブル問題・依存症家族ミーティング
 - ・依存症について学び、同じような悩みを持つ家族の方の交流をします（月1回）

（福島県依存症相談拠点 依存症相談員 新藤）

編集後記

自殺対策メールマガジン第3号はいかがでしたか？ データの集め方、数値の読み取り方、活用の仕方、見せ方などを知っておくと、業務に役立つだけでなく、日常に潜む数字のマジックに気づきやすくなるかもしれません。

標準化死亡比や年齢調整死亡率の計算では、年齢階級別に自殺死亡率と人口をかけ算して、それらを足し合わせて総和を求めますが、総和と言えば高校生の数学で習う「Σ」を思い出しますね。皆様が高校生の頃、自殺について考えたり、教わる機会がありましたか？

次号は若者の自殺対策について取り上げる予定です。ぜひご覧ください。

（自殺対策連携推進員 上里）